

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：50102

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12924

研究課題名（和文）近世後期の女性文学者日尾邦子の研究

研究課題名（英文）Research on female literary scholar Hio Kuniko, in the late Edo period

研究代表者

時田 紗緒里（TOKITA, SAORI）

苫小牧工業高等専門学校・創造工学科・准教授

研究者番号：00898067

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 400,000円

研究成果の概要（和文）：日尾邦子の旅日記『江島鎌倉紀行』には、邦子が即興で詠まれた漢詩を直ちに理解して、その内容を踏まえて詠んだ和歌がある。邦子の詠歌能力と共に、漢学への素養をうかがわせるものとして重要であることを指摘した。以上の内容について、「日尾邦子江島鎌倉紀行」と題して論文を執筆し発表した。（『国文目白』第六十一号六〇～六十九頁、二〇二二年二月）

また、同著作『花月園漫筆』の分析により、邦子の興味の範囲は、詠歌そのものよりも「歌語」に及んでおり、本書は歌学書的な要素を持つことが明らかとなった。以上の内容は、「日尾邦子『花月園漫筆』考」と題して論文として発表した。（『国文目白』第六十三号、二〇二四年二月）

研究成果の学術的意義や社会的意義

日尾邦子は漢学の素養を持ち、散文の執筆を行っている（『江島鎌倉紀行』、『花月園漫筆』）。いままで、邦子は教育者として、あるいは歌人としての面に注目されて、執筆活動については知られていなかった。

近世の女性文学者については、未だその実態が明らかになっていない。しかしながら、数多く存在し、その著作も多く残されている。解明されない理由は、出版文化が隆盛した近世において、女性の作品は写本により流通し、限られた範囲でしか読まれていないためである。注目されていない現存する女性文学者の著作を翻刻・研究することは、文学史的意義がある。

研究成果の概要（英文）：‘Enoshima Kamakura Hio, there is a waka poem that she composed on the spot after immediately understanding an impromptu Chinese poem. This demonstrates not only her poetic abilities but also her grounding in classical Chinese studies. The above content was pointed out and published in a paper titled ‘Kuniko Hio’s Enoshima Kamakura Kikou.’ (Kokubun Mejiro, Issue 61, Pages 60-69, February 2022)

I also conducted research on the same author’s work, ‘kagetuen Manpitu.’ It became clear that Kuniko Hio’s interests extended to ‘Kago’ (poetic words), and the book possesses elements of a treatise on the art of poetry. These findings were published in a paper titled ‘A Study of Kuniko Hiho’s ‘Kagetuen Manpitu.’ (Kokubun Mejiro, Issue 63, February 2024)

研究分野：近世女性文学

キーワード：日尾邦子 紀行文 漢学 和学 歌学 随筆 近世文学 近世女性文学

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近世(江戸時代)後期の女性文学者・日尾邦子について研究する。

邦子については、日尾荊山研究に関わりその妻としての側面に注目された研究、また直子と共に女子教育者としての面に着目した論考が備わるのみで、邦子の文学作品に関しては研究されてこなかった。

そこで、現存する邦子の作品の翻刻・分析を行い、邦子の文学者としての活動を明らかにすることを志した。

### 2. 研究の目的

邦子の和文の特徴を明らかにすることを目的とする。

邦子は出羽庄内藩主酒井家の江戸藩邸奥向に侍女として出仕しながら、日尾荊山に入門して和歌と書を学んだ。のちに荊山の後妻となり、荊山と先妻との子・日尾直子と共に竹陰女塾を開いている。

邦子については、日尾荊山研究に関わりその妻としての側面に注目された研究、また直子と共に女子教育者としての面に着目した論考が備わるが、邦子の文学作品に関しては研究されてこなかった。

邦子の作品が研究されてこなかった理由としては、文学の流通には出版が主流となった中で、邦子はじめ女性の作品は写本により限られた範囲で読まれていたことにあると考える。注目されてこなかった女性文学者の作品を翻刻し研究することによって、近世文学史研究の一助とすることを旨とした。

### 3. 研究の方法

邦子について、「伝記および学問体系を示す」「未翻刻の作品について翻刻と内容を把握する」「邦子の和文の特徴、執筆手法を明らかにする」、以上三点の研究を進める。

現存する日尾邦子の著作を可能な限り調査・収集を行い、書誌の整理と翻刻を行う。

現状存在が確認できる邦子の著作は、『歌合拔書』(国文学研究資料館)、『花月園漫筆』(国会図書館)、『竹の下風』(静嘉堂文庫)、『貞婦染行状』(国会図書館、香川大学中央図書館神原文庫、東北大学付属狩野文庫、無窮会平沼文庫、長野県立大学図書館、石川県立博物館)、『江の島紀行』(日本女子大学)である。

翻刻の後、分析を行う。作品の典拠や影響関係を明らかにし、その学問体系を解明する。

### 4. 研究成果

当初、現存する邦子の作品を収集する計画であったが、新型コロナウイルスにより飛行機移動を伴う出張調査が難しい期間が続いたため、主要な『江の島紀行』(紀行)『花月園漫筆』(随筆)を中心に翻刻と内容の分析を行った。

日尾邦子の旅日記『江島鎌倉紀行』は、日本女子大学本『江島鎌倉紀行』を翻刻して用いた。本書は邦子自筆資料である。『鎌倉志』の影響が大きく、取り上げられている名所旧跡については『鎌倉志』を参考にしているものが多数ある。そのほか、邦子の紀行文の特徴として、自作の和歌(贈答歌を含む)が見られた。その中に、邦子の夫荊山が即興で漢詩を吟じたのに応じて、邦子が直ちに漢詩の内容を理解して詠んだ和歌が存在していた。これは、邦子の詠歌能力と共に、漢学への素養をうかがわせるものとして重要である。以上の内容について、「日尾邦子江島鎌倉紀行」と題して論文を執筆し発表した。(『国文目白』第六十一号、二〇二二年二月)

『花月園漫筆』の「花月園」とは邦子の歌人としての名前(号)で、本作品は邦子自筆の作品である。邦子が参加した歌合における歌の記録や、面会した人達と詠み合った和歌の記録がある。だが、和歌の記録は本作品の中心ではなく、歌人や歌語、和歌について知っていることや考えたことをまとめた「随筆」であるといえる。

例えば「和泉式部」についての和歌の考えや人物についての考えを述べるもの、「をかし」「さやけき」と立項して該当する歌がどのようなものかを述べるもの、歌語について取り上げて関連する歌を挙げ、自らの考えを述べるもの、自分では使わない歌語を使用した和歌にふれ、意見を述べるもの、「下の句同じき歌」として下の句が同じ和歌をひたすら列挙するものなど、項目ごとに書き方や内容が異なり、その立項順序には法則性がない。日々邦子が歌にふれ、その時々感じたことを書いているために、法則性・統一性がない形式になっているものと考えられる。

しかしながら、邦子の興味の範囲は、詠歌そのものよりも「歌語」に及んでいるとも言えるので、本書は随筆ではあるが歌学書的な要素も持つと言える。以上の内容は、「日尾邦子『花月園漫筆』考」と題して論文化して発表した。(『国文目白』第六十三号、二〇二四年二月)

近世における女性文学者の活動の背景には、活躍できる「文化サロン」の存在がある。「文化

サロン」においては、出版されずとも写本によって本が流通する。そして、時には人伝や手紙で、広く読まれ得る。

『江島鎌倉紀行』及び『花月園謾筆』は、日尾荊山とその周辺を読者対象にしたものと考えられ、日尾荊山を主とする「文化サロン」において、邦子が執筆活動を行っていたことを示すものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 時田紗緒里	4. 巻 61
2. 論文標題 日尾邦子『江島鎌倉紀行』考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国文目白	6. 最初と最後の頁 60-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 時田紗緒里	4. 巻 63
2. 論文標題 日尾邦子『花月園謾筆』考	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国文目白	6. 最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------